

- 47.（声がして言われよう。）「かれを捕えよ、燃えさかる炎の只中に、引きずり込め。
- 48.それから、かれの頭の上に沸騰する湯の痛苦を浴びせよ。
- 49.あなたは（これを）味わうがいい。本当にあなたは、力のある尊貴な者であった。
- 50.これこそあなたがたが、疑っていたものである。」
- 51.本当に、主を畏れた者は、安泰な所にいる。
- 52.園と泉の間に、
- 53.絹や錦を纏い、栗いに向かい合って、
- 54.このようにわれは、輝いた大きい目の乙女たちをかれらの配偶者にするであろう。
- 55.かれらはそこで平安に、凡ての果実を求められ、
- 56.最初の死の外に、そこで（再び）死を味わうことはなく、燃える炎の責め苦から守護されよう。
- 57.あなたの主からの賜物、それこそは至福の成就である。
- 58.われはこの（クルアーン）を、あなたの言葉（アラビア語）で（下し）分りやすくした。かれらは、理解し諭されるかもしれない。
- 59.だからしばらく待つて様子を見なさい。本当にかれらの方も様子を伺っているのだから。

SURA 45.跪く時章〔アル・ジャーシヤ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.ハー・ミーム。
- 2.この啓典の啓示は、偉力ならびなく英明な、アッラーから（下されたもの）である。
- 3.本当に天と地には、信者たちにとり種々の印がある。
- 4.またあなたがた自身の創造、そしてかれが（地上に）撒き散らされた生きとし生けるものには、信心堅固な者に対し、種々の印がある。
- 5.昼と夜との交替、またアッラーが天から下された糧、それによって死んでいる大地が甦ること、また風向きの変化にも、知性ある者への種々の印がある。
- 6.これらは、真理によってわれがあなたに読誦するアッラーの印である。アッラーとその啓示以外に、どんな説諭を（かれらは）信じようとするのか。
- 7.災いなるかな、凡ての罪深い嘘付き者たちよ。
- 8.アッラーの啓示がかれに読誦されるのを聞いても、なお強情、高慢で、それが聞こえないかのようである。それなら痛ましい懲罰をかれらに告げ知らせよ。

9.かれらは、わが啓示の一端を理解すると、それを嘲笑的にとる、これらの者には、恥ずべき懲罰がある。

10.かれらの行く先は地獄で、その行ったことは、かれらに役立つことは何もなく、また守護者として、アッラー以外に祈ったものも、役立たない。かれらには手痛い懲罰がある。

11.これが（真の）導きである。主の印を信じない者たちには、忌しく苦しい懲罰がある。

12.アッラーこそは海をあなたがたに従わせられた方で、かれの御命令によって、船はそこを航行し、あなたがたはかれの恩恵（の通商往来）を追求する。それであなたがたは、感謝するであろう。

13.またかれは、天にあり地にある凡のものを、（賜物として）あなたがたの用に服させられる。本当にこの中には、反省する者への印がある。

14.信仰する者たちに言え。アッラーの日を望まない者でもゆるしてやれ。なぜなら、現世でのかれらの所業に応じて、アッラーはかれら一団に来世で報いられるのだから。

15.誰でも善行をする者は自らを益し、悪行をする者は自らを損なう。それからあなたがたの主の御許に帰されるのである。

16.本当にわれは、イスラエルの子孫に啓典と英知と預言の天分を授け、様々の善い給養を与え、また諸民族よりも卓越させた。

17.またわれは（宗教の）事に就いて、かれらに明証を授けた。それで知識がかれらの許に来た後において、自分たちの間の嫉妬により、異論を唱えるようになった。本当にあなたの主は、異論を唱えたことに就いて、復活の日に御裁きになられる。

18.その後われは、あなたに命じ（正しい）道の上に置いた。それであなたはその（道）に従い、知識のない者の虚しい願望に従ってはならない。

19.本当にかれらは、あなたにとってアッラー（からの懲罰）に対し全く無力である。悪を行う者は、お栗い同士友である。だがアッラーは、主を畏れる者の友である。

20.この（クルアーン）は、人びとに対する明証であり、導きであり、また信心の堅固な者への慈悲である。

21.あなたがたは、われが悪行を追求する者を、信仰して善行に動しむ者と同じに扱うとも思うのか。（不信心者たちの）生（現世）と死（来世）が同じであるとでも思うのか。かれら（不信者）の判断こそ誤算である。

22.アッラーは、天と地を真理によって創造なされた。そして各人は、その行ったことに対して報いられ、不当に扱われることはないのである。

23.あなたがたは自分の虚しい願望を、神様として崇めている者を見ないか。アッラーは御承知のうえでかれを迷うに任せ、耳や心を封じ、目を覆われた。アッラーに（見放された）後、誰がかれを導けよう。あなたがたは、これでも訓戒を受け入れないのか。

- 24.かれらは言う。「有るものは、わたしたちには現世の生活だけです。わたしたちは生まれたり死んだりしますが、わたしたちを滅ぼすのは、時の流れだけです」しかしかれらは、これに就いて何の知識もなく、只臆測するだけである。
- 25.われの明白な印がかれらに読誦されると、かれらの論法は只、「あなたの言葉が真実ならば、わたしたちの祖先を連れ戻しなさい」と言うだけである。
- 26.言ってやるがいい。「アッラーが、あなたがたに生を授け、それから死なせ、それから復活の日に、あなたがたを召集なされる。それに就いて疑いはない。だが、人びとの多くは、これを理解しない。」
- 27.天と地の大権は、アッラーの有である。時が、到来する日、虚偽に従う者は失敗者となる。
- 28.あなたは、各集団が跪きながら、夫々の集団で自分の記録の所に呼ばれるのを見よう。この日、あなたがたが行ったことに対して報いられるのである。
- 29.このわれの記録こそはあなたがたについて真実を語る。本当にわれは、あなたがたの行ったことを書き留めさせて置いた。
- 30.それで信仰し、善行に勤しんだ者、主はかれらを、慈悲の中に入らせられる。これは明らかに至福の成就である。
- 31.それから不信者に対しては、「われの啓示が、あなたがたに読誦されなかったのか。あなたがたは高慢で、犯罪者である。」（と言われよう）。
- 32.そして（かれらに向かって、）「アッラーの御約束は、本当に真実である。（審判の）時は、疑いの余地はないのである。」と告げられると、あなたがたは、「時が何であるのか、わたしたちには分かりません。それは全く臆測に過ぎないと思います。だからわたしたちは、しっかりした確信など持てません。」と言った。
- 33.こうして、かれらの行った様々な悪がかれらに現われ、かれらの嘲笑していたことが、かれらを取り囲む。
- 34.仰せられよう。「今日われは、あなたがたを忘れるであろう。あなたがたが、この日の対面を忘れたように。あなたがたの住まいは業火である。あなたがたには、（もはや）助ける者はないのである。
- 35.それはあなたがたが、アッラーの印を嘲笑し、現世の生活があなたがたを欺いていたためである。それで今日は、そこから出して貰えず、また、（アッラーの）御恵・にもあずかれない。」
- 36.諸天の主、大地の主。万有の主、アッラーにこそ凡ての称讃あれ。
- 37.天と地における、尊厳は、かれ（だけ）のものである。かれは偉力ならびなく英明であられる。